

「平和」と「自然」と「芸術」

「ぼくたちの緑の星」

6年 恩田 彩蓮

私がいつもニュースを見て考えるのは、平和とはなにか、という疑問だ。「平和」には、いろいろな考えがある。「戦争をしないこと」「みんなが笑顔で、幸せなこと」だが、私がこの本を読み終えてから出した考えは、それらのどれともちがいで、「自分があること」だった。

この本で紹介したい言葉がある。「平和の星で、平和を愛する人達と協力しあって、さらなる平和を築き上げ、築き上げた平和をしっかりと守る。」「平和は、終わりがありません。始まりだけがあるのです。」今、笑顔が壊されているこの星は何なのか。そして、戦争や破壊が断えないこの世界で平和が始まるのか。平和が始まる前に人々の「不幸」が始まってしまうのではないか。これらの疑問の答えは、私たちが自身が、考えて築いていかなければな

らない。平和を始めるのだ。

この物語の世界では、「名前」が消えて、「識別番号」が個々の判断になっていく。そんな世界で、私は、希望を持てるのか、考えた。私だ。たぶん自分が殺されてしまう気がした。自分が失くなってしまおうとは、こういうことなのだ。怖かった。自分がいなくなってしまうというよりは、今この瞬間に感情を持っている私も失くなってしまいたい、そもそもこんなことも考えられなくなるのだ。自分は

大切にしたい、そう思った。感情が失くなったら楽になる、と言う人もいるかもしれない。悲しいこともなくなるから。でも、それは、楽しいこともなくなる、ということも意味する。何より、感情がなくなると、ロボットと同じになってしまふのだ。私には、未だにその様子が浮かばない。ただ、今分かるのは、この世界のように、なっ、てはいけないうことだ。自然や色を失くしてはいけないうこと。世界が少しでも良

くなると嬉しい。

他にも紹介したい文がある。音楽は人のバ
そのものなの。楽しい心を、楽しく弾く。幸
せな心は幸せに。そうすれば、聞いた人も楽
しくなる。だから、音楽というのね。「僕は
緑を失いたくない。そして、美しい七つの色
を、虹色の森を、木々や草花を。」この世界で
は、人の心を殺すために、芸術と自然が消え
ていく。芸術が消えてしまえば、例え名前が
ついていても、私は感情が消えてしまうかも

しれない。心に色が失くなる気がする。自然
は身の回りに当然のようにあるが、いざそれ
がなくなると大切だと気づくのさ。自然は私
たちの心を陰ながら支えている。その自然が
消えれば、私たちは壊れてしまう。芸術も自
然も、どちらでも人間になくてはならないもの。
普段は気づけないことも、この本が教えてく
れた。

この本を読み、自然と芸術の大切さに気づ
いた。私も、自然や芸術のために動きたい。